

# 海洋ごみに関する意識調査

---

## 調査結果

# 調査の概要

## 設計

- ・対象： 国内居住の16歳から79歳男女個人
- ・サンプル数：1,400s（性年代均等割付）
- ・抽出方法： ネットモニター登録者のうち、上記条件に合致する者より無作為抽出
- ・調査手法： インターネット調査（定量調査）

## 聴取項目

属性：性別・年齢、居住地、同居家族、家のタイプ、居住地の環境  
海洋ごみに関することから：

海洋ごみ問題に関する認知状況、ごみを減らす活動への参加意向など

## 実査期間

2018年 11月上旬実施

## ウェイト集計

あり ※TOTAL値に対して実施

（最新版国勢調査（2015年）の性年代人口構成を正としてウェイト）

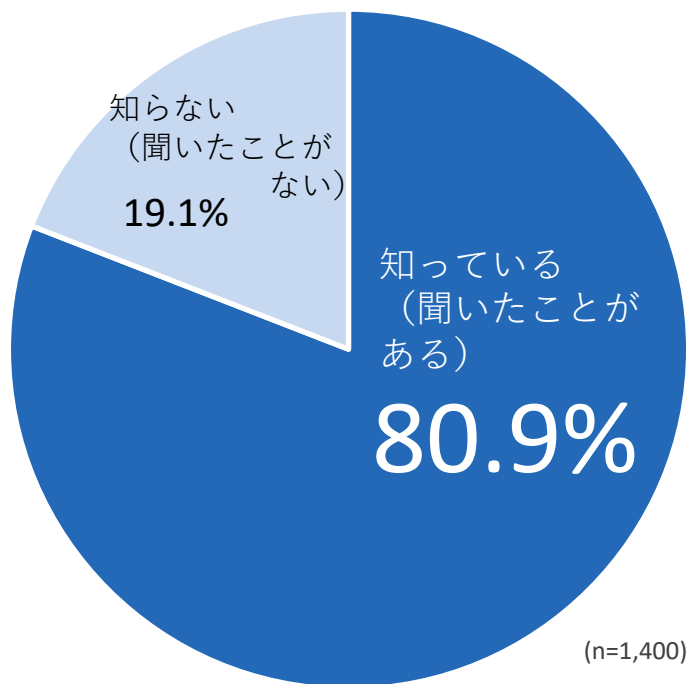
# 海洋ごみ問題に関する認知

**約8割の人が「海洋ごみ」という言葉を認知している。**

- 「海洋ごみ」という言葉を「知っている（聞いたことがある）」回答した人は全体の80.9%。

## < 「海洋ごみ」の言葉の認知 >

q. 近年「海洋ごみ（海ごみ）」が問題として取り上げられることが多くなっています。あなたは「海洋ごみ（海ごみ）」問題をご存知ですか。



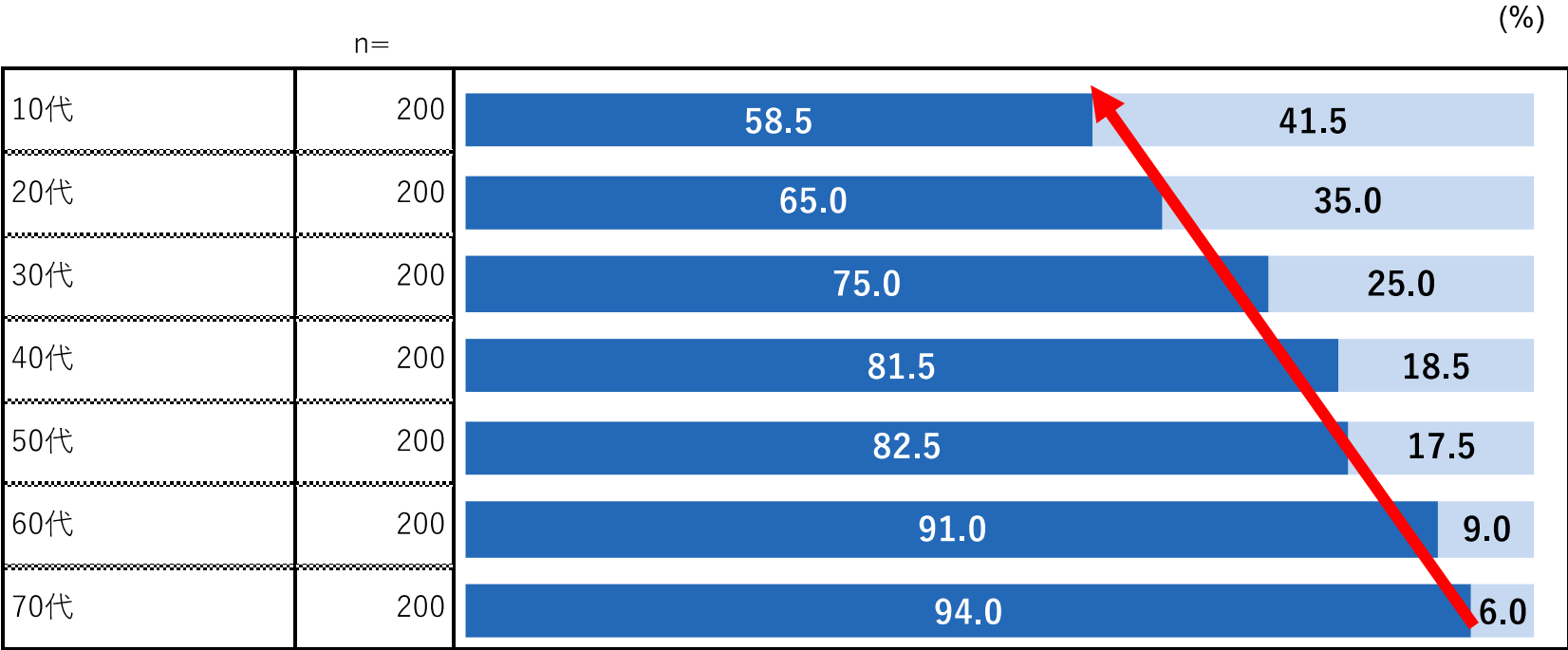
# 年代別 海洋ごみ問題に関する認知

## 「海洋ごみ」の言葉の認知率は若年層で低い。

- 「海洋ごみ」という言葉の認知は60代以上では9割を超える。
- 一方10代では58.5%、20代では65.0%と約6割程度にとどまり、年代で差が見られる。

Q. 近年「海洋ごみ（海ごみ）」が問題として取り上げられることが多くなっています。あなたは「海洋ごみ（海ごみ）」問題をご存知ですか。

■ 知っている（聞いたことがある）      ■ 知らない（聞いたことがない）



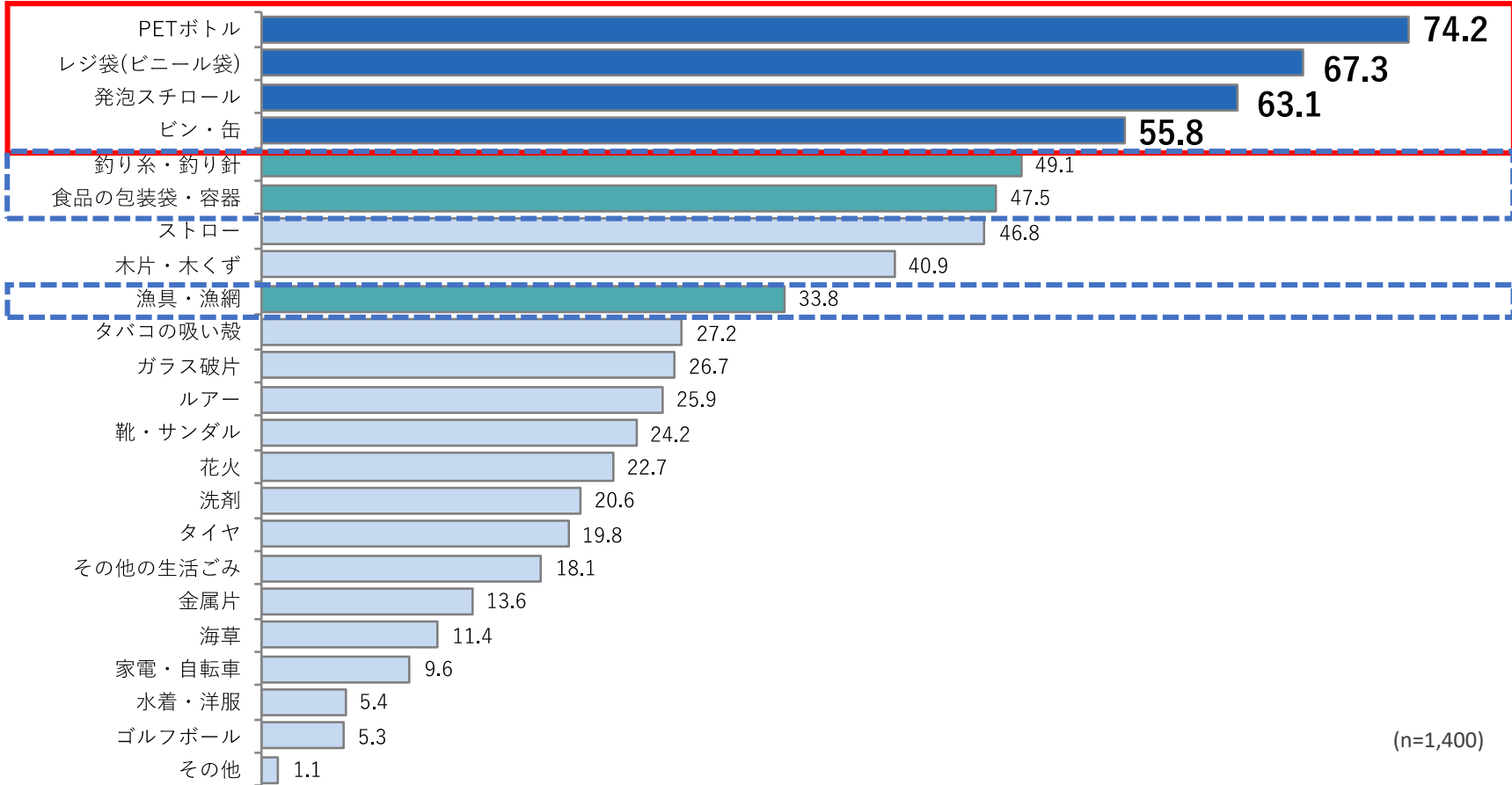
(n=1,400)

# 思い浮かぶ海洋ごみ

## 想起される海洋ごみと、実態には乖離がある。

- 想起率が5割を超える「海洋ごみ」は、PETボトル、レジ袋（ビニール袋）、発泡スチロール、ビン・缶。特にPETボトルは74.2%と高い想起率となっている。
- 実際にごみとして多い釣り糸や漁具、食品の包装袋などの想起率は5割未満。

Q. 「海洋ごみ（海ごみ）」と聞いて、思い浮かぶものを全てお答えください。



(n=1,400)

# (参考) 海で見つかるごみのTOP10

最も多いのはプラスチックの釣り糸、次いでプラスチックの破片となっている。

## Top 10 Trash Items Found in the Ocean

More than one million pieces removed & reported through Dive Against Debris™



Figure 2. Top 10 marine debris collected as of 2018 through Dive Against Debris, a flagship citizen-science program coordinated by Project Aware.

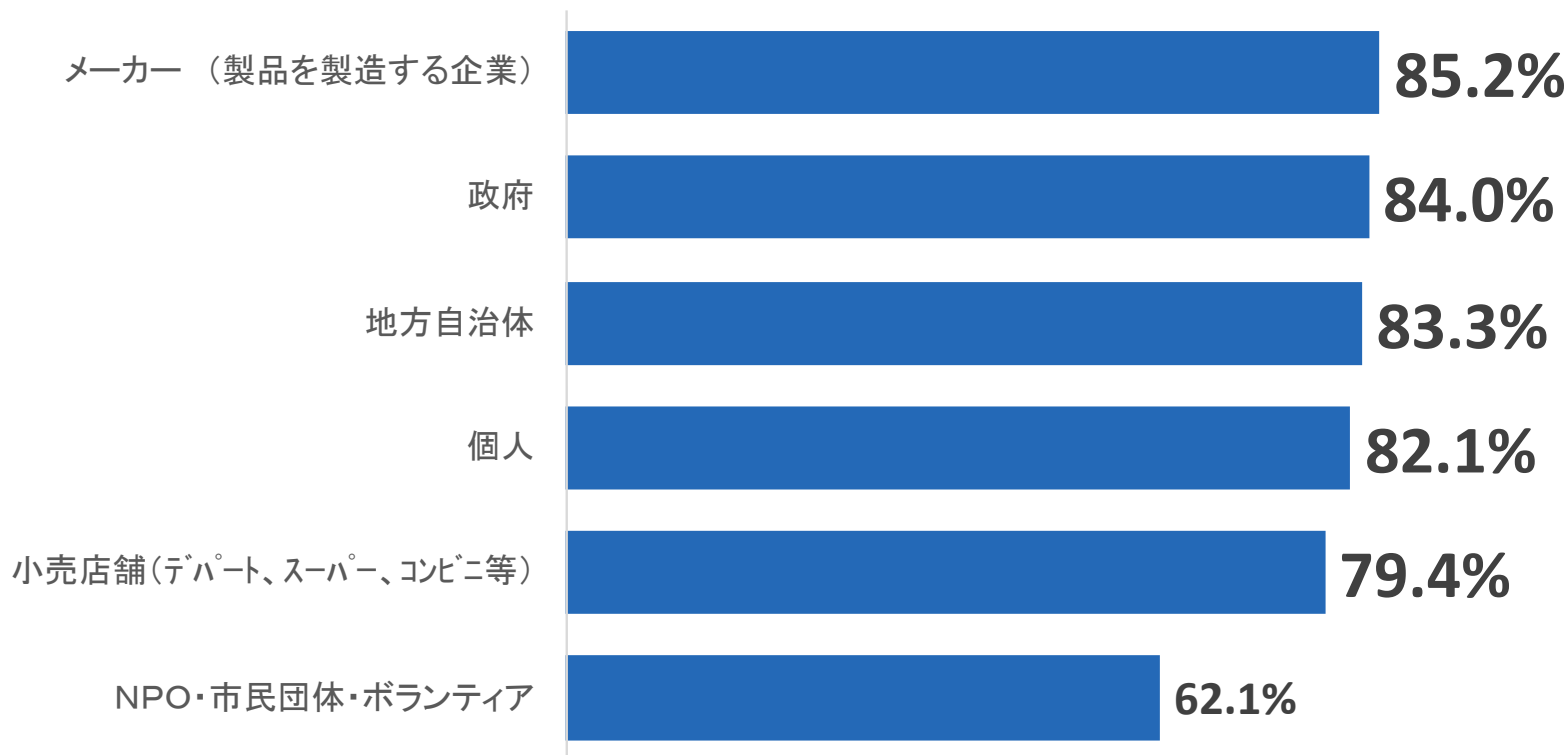
Dive Against Debris. 2018. Top 10 Trash Items Found in the Ocean. Project Aware. Retrieved from <https://www.projectaware.org/diveagainstdebris>.

# 海洋ごみの削減に関わるべき主体

海洋ごみの削減については、誰もが主体的に取り組むべき重要課題であると認識されている。

- 約8割の人がメーカー、政府、地方自治体、個人、小売店舗について取り組みが重要と回答。

Q.あなたは、海洋ごみ（海ごみ）の削減にあたっては、誰の（どこの）取り組みが重要だと思いますか。それぞれの重要度をお答えください。



※「とても重要」「まあ重要」の合計値

(n=1,400)

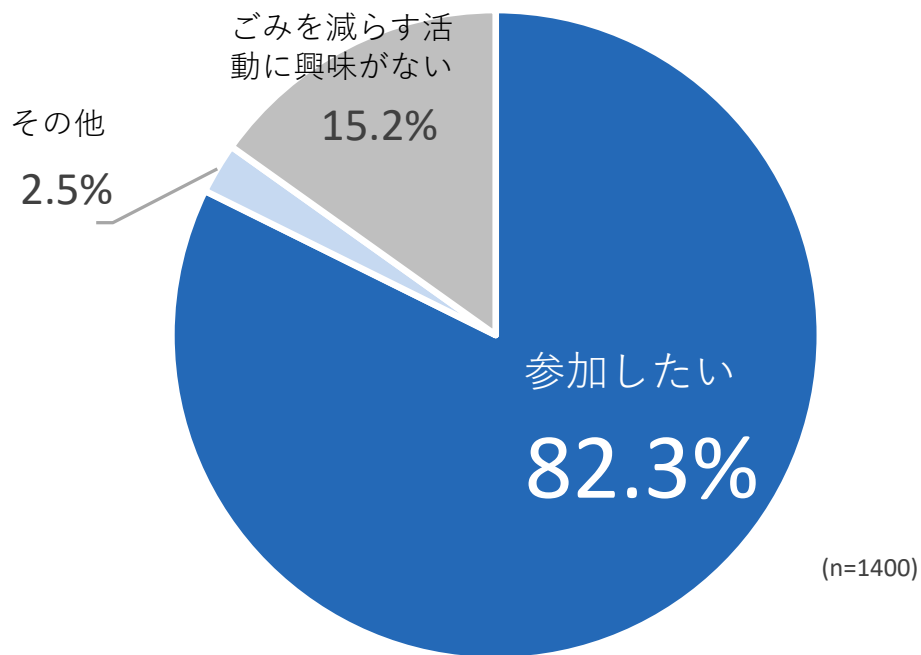
# ごみを減らす活動への参加意向

ごみを減らす活動への参加意向は全体で8割強。

## < 「ごみを減らす活動」 への参加意向 >

Q. 「ごみを減らす活動」について、あなたのお考えに近いものを、いくつでもお選び下さい。

<活動の例> ・まちなか・川辺・海辺などでの清掃活動、 ・地域ぐるみでの資源ゴミ分別活動への参加・協力、  
・生協などの消費者団体や職場・学校などでのゴミに関連した取り組みへの参加など



参加意向：「気軽に参加できる場があれば参加したい」、「興味のある事柄に関する活動の一環であれば参加したい」、「目的が明確なものであれば参加したい」（単数回答）の合計値

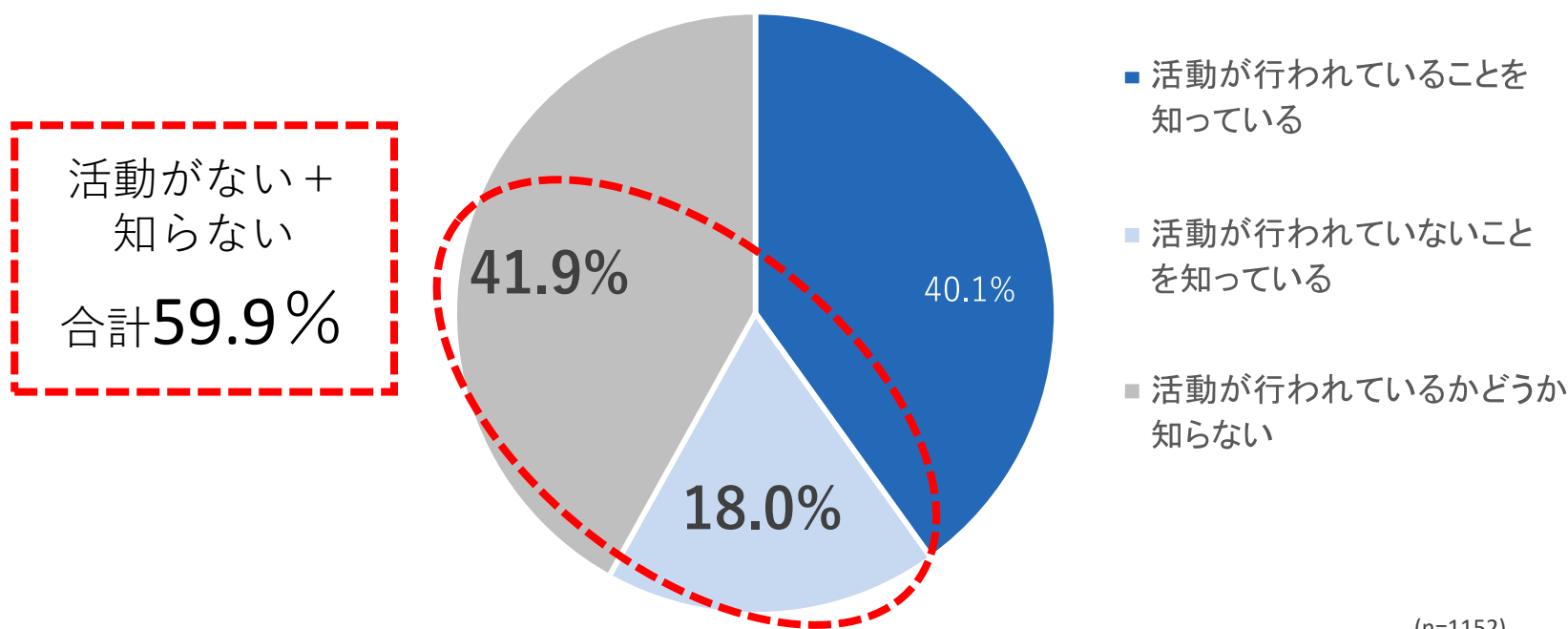


# ごみを減らす活動の場の認知

ごみを減らす活動への参加意向・興味はあっても、住んでいる地域や近隣地域での活動がない、または行なっているか知らない人が約6割。

Q.あなたは、ご自身がお住いの地域、または近くの地域で「ゴミを減らす活動」が行われているかどうか、ご存じですか。

< 「ごみを減らす活動」の場の認知状況 > (ベース：活動に参加したい)



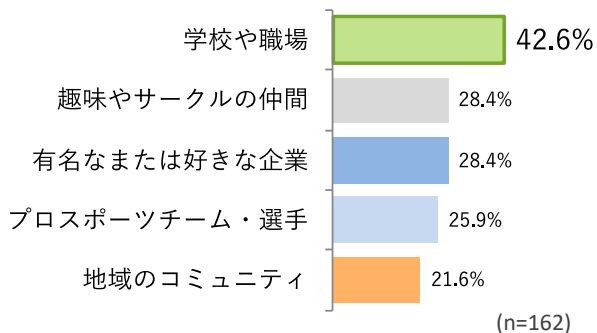
(n=1152)

# 参加したい活動の主体（年代別）

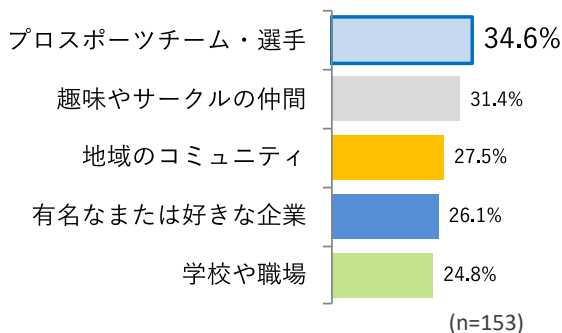
各年代とも、自分にとって身近な、または興味・関心のあるコミュニティでの活動意向が高い。

Q.あなたが「ごみを減らす活動」に参加するとしたら、誰が行っている場に参加したいと思いますか。（ベース：活動に興味がない以外）

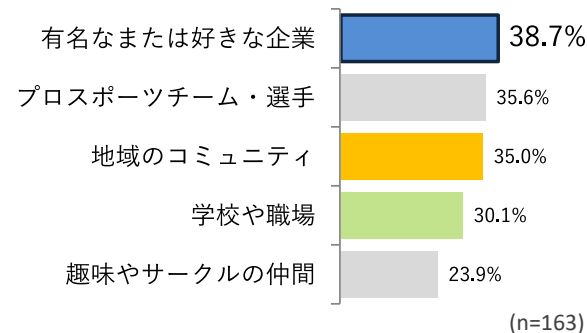
## <10代>



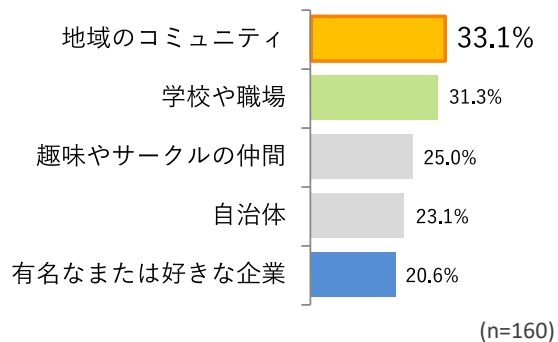
## <20代>



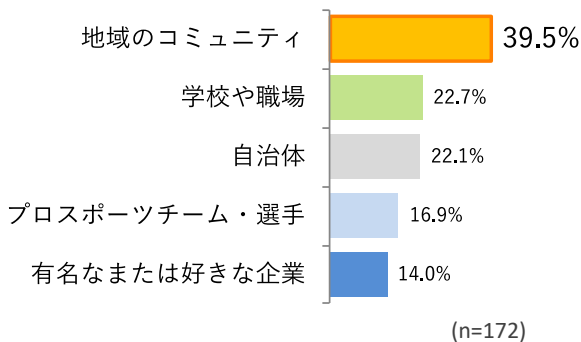
## <30代>



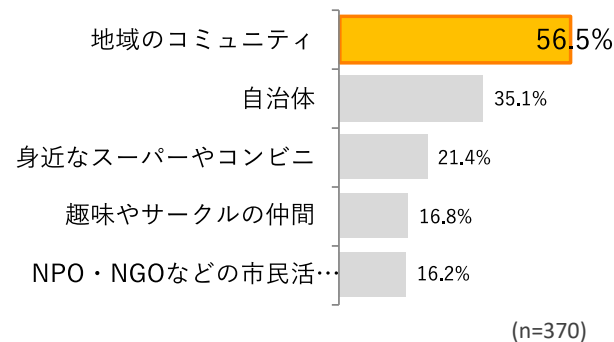
## <40代>



## <50代>



## <60・70代>



# 意識調査から明らかになったこと

- ✓ 海洋ごみ問題はすでに国民にとって一般化された問題である。一方でごみの実態は理解されていない。
- ✓ 海洋ごみの削減については、「誰かがやる」ではなく、全員で取り組むべき問題であると認識されており、対応が求められている。
- ✓ 個人での活動意欲は高いが、それぞれが活動しやすい場が少ない。